

臨地実習の意義

日本の社会は、現在、少子・超高齢・多死社会を見据えた社会保障制度改革の最中にあります。人口構造や経済情勢の変化の中で、保健・医療・福祉が一体化した地域包括ケアシステムへと転換しつつあります。その中で、看護の目的は、あらゆる年代の個人、家族、集団、組織、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復と促進、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく生を全うできるように援助を行うことです。本学科では、人びとのいのちと暮らしを守り、適切な保健・医療・福祉を提供できる専門職者となることをめざしてカリキュラムを編成しています。

この目的を達成するためには、2つの実践能力を身につける必要があります。1つは看護師にもとめられる能力で（1）ヒューマンケアの基本的能力（2）根拠に基づき看護を計画的に実践する能力（3）健康状態に応じた看護が実践できる能力（4）保健医療チームの一員として役割を遂行し、協働できる能力です。そしてもう1つは保健師にもとめられる能力で（1）地域の健康課題を明確にし、課題解決に向けて計画・立案する能力（2）地域の健康増進能力を高める支援とその活動を評価する能力（3）地域の健康危機管理能力（4）地域の健康水準を高めるシステムを開発する能力です。さらに両者に共通するものとして、（5）専門職者として研鑽し続ける能力です。

これらの能力を身につけるために、学校の中での学習と臨地に赴く学習があります。中でも臨地実習は、今その時に、その場所で暮らし、困難な状況の中でも生きている人びとに対して関わり、自らの実践を通して学ぶことができるという、非常に得難く貴重な機会です。だからこそ、学校で積み重ねてきた知識と、修め磨いてきた技術を活用して、精一杯学ぶことができるようにしましょう。

何より心にとどめておいていただきたいのは、学生にとっては貴重な学習の機会ではありますが、そこで出会う看護の対象（人びと）にとっては、まさにさまざまな問題や課題を抱えて生きている、その人生の一場面に介入されるということです。この一回性の学習の機会を真摯に受け止めてください。学習の途上にある皆さんに学習の機会を与えてくださっていることに感謝しつつ、心を込めて関わってください。

（専）京都中央看護保健大学校
看護保健学科 学科長

看護職の倫理綱領

日本看護協会「看護職の倫理綱領」

前文

人々は、人間としての尊厳を保持し、健康で幸福であることを願っている。看護は、このような人間の普遍的なニーズに応え、人々の生涯にわたり健康な生活の実現に貢献することを使命としている。

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象としている。さらに、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく人生を全うできるようその人のもつ力に働きかけながら支援することを目的としている。

看護職は、免許によって看護を実践する権限を与えられた者である。看護の実践にあたっては、人々の生きる権利、尊厳を保持される権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などの人権を尊重することが求められる。同時に、専門職としての誇りと自覚をもって看護を実践する。

日本看護協会の『看護職の倫理綱領』は、あらゆる場で実践を行う看護職を対象とした行動指針であり、自己の実践を振り返る際の基盤を提供するものである。また、看護の実践について専門職として引き受ける責任の範囲を、社会に対して明示するものである。

条文

1. 看護職は、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する。
2. 看護職は、対象となる人々に平等に看護を提供する。
3. 看護職は、対象となる人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する。
4. 看護職は、人々の権利を尊重し、人々が自らの意向や価値観にそった選択ができるよう支援する。
5. 看護職は、対象となる人々の秘密を保持し、取得した個人情報適正に取り扱う。
6. 看護職は、対象となる人々に不利益や危害が生じているときは、人々を保護し安全を確保する。
7. 看護職は、自己の責任と能力を的確に把握し、実施した看護について個人としての責任をもつ。
8. 看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める。
9. 看護職は、多職種で協働し、よりよい保健・医療・福祉を実現する。
10. 看護職は、より質の高い看護を行うために、自らの職務に関する行動基準を設定し、それに基づき行動する。
11. 看護職は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する。
12. 看護職は、より質の高い看護を行うために、看護職自身のウェルビーイングの向上に努める。
13. 看護職は、常に品位を保持し、看護職に対する社会の人々の信頼を高めるよう努める。
14. 看護職は、人々の生命と健康をまもるため、さまざまな問題について、社会正義の考え方をもって社会と責任を共有する。
15. 看護職は、専門職組織に所属し、看護の質を高めるための活動に参画し、よりよい社会づくりに貢献する。
16. 看護職は、様々な災害支援の担い手と協働し、災害によって影響を受けたすべての人々の生命、健康、生活をまもることに最善を尽くす。

I. 教育理念 教育目的・目標

教育理念

本大学校では、人間尊重と調和の精神を基調に豊かな感性に基づく看護を実践し、ともに支えともに成長する社会の実現に向けて、未来に躍進する看護職者を育成する。

その過程では、「科学の知」と「臨床の知」を相補的に絡ませ、看護の対象となる一人ひとりのさまざまな生活や、それぞれの場面で生じる一つひとつの事象に熟考を重ね、次なる経験に活かせる思考を培う。また、保健・医療・福祉に関する全ての職種と協働し、京都の地から、コスモス（校花）の語源であるグローバルな視野をもって地域住民の健康水準向上に寄与できる素養を養う。

[用語解]

科学の知：普遍性・客観性・論理性

臨床の知：個別性・相互作用性・多義性

教育目的

本校は教育基本法および学校教育法に基づき教育を実施し、保健師助産師看護師法の主旨に則り、専門的知識・技術を教授するとともに、健全で、調和のとれた人間教育を行い、看護実践者として、広く社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。

教育目標

1. 看護の対象である人間を全人的に理解できる能力を養う。
2. 生命の尊厳と権利を尊重し、人間関係を構築できる基礎的能力を養う。
3. 対象の健康状態を判断し、根拠に基づく看護を実践できる能力を養う。
4. チームで連携・協働できる能力を養う。
5. 専門職として看護の本質を探究し、生涯にわたり学び続ける能力を養う。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・高度専門士授与に関する方針）

1. 看護の対象である人間を全人的に理解する能力
2. 生命の尊厳と権利を尊重し、対象の思いや意思を支え、人間関係を構築する能力
3. 対象の健康状態を判断し、根拠に基づいて看護を実践する能力
4. 多様な環境や人々の中で、協同して課題を改善していく能力
5. 看護の本質を探究し、生涯にわたり学び続け、自分も他者も共に成長していく能力

Ⅱ. 看護保健学科進度表

看護保健字科進度表			128単位 (3730)時間			(指定規則 128単位)					講義		実習		指定規則									
教育内容			単位数	配当 時期	時間数	単位計(分野・領域)	時間計	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後									
基礎分野	科学的思考の基盤	生命現象と科学	1	1前	30	14	330	30								14								
		自然現象と科学	1	2前	20					20														
		研究論文作成入門	1	2後	20						20													
		法と暮らし	1	1前	30			30																
		人間の発達と適応	1	1前	20			20																
	人間と生活、社会 の理解	生活科学	1	1前	20																			
		人間と社会	1	1後	20				20															
		人間と教育	1	1後	30				30															
		芸術と癒し	1	1全	20			10	10															
		語学コミュニケーション(英語)	1	1全	30			15	15															
		語学コミュニケーション(中国語)	1	2全	30					15	15													
		初年次教育ナビ	1	1前	20			20																
グローバル社会の理解	1	2前	20			20																		
情報の活用と情報倫理	1	1前	20	20																				
小計			14	*	330		165	75	55	35	0	0	0	0										
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ 循環器系 血液・免疫 呼吸器	1	1前	30	16	160	30								16								
		解剖生理学Ⅱ 脳神経・運動器・感覚器	1	1前	30			30																
		解剖生理学Ⅲ 消化器 腎・泌尿器 内分泌 生殖器	1	1全	30			20	10															
		看護のための形態機能学Ⅰ	1	1全	20			6	14															
		看護のための形態機能学Ⅱ	1	1後	20				20															
		栄養と代謝	1	1前	30			30																
		感染症と生体防御	1	1後	30				30															
	疾病の成り立ちと 回復の促進	病理学	1	1後	20		260		20															
		疾病論Ⅰ(循環器障害 運動器障害 呼吸器障害)	1	2前	30					30														
		疾病論Ⅱ(脳神経障害 内分泌障害 血液・免疫障害)	1	2前	30					30														
		疾病論Ⅲ(消化器障害 腎・泌尿器障害 生殖器障害)	1	2後	30						30													
		疾病論Ⅳ(感覚器障害 精神病理・ストレス)	1	2後	30						30													
		臨床検査	1	2前	20					20														
		治療論Ⅰ	1	2前	20					20														
		治療論Ⅱ	1	2前	20					20														
		疾病の回復と薬理	1	1後	30				30															
		臨床心理学	1	3前	20							20												
	健康支援と社会保 障制度	社会福祉の現状と課題	1	2後	30	9	210					20												
		保健・医療・福祉と法規	1	1後	30				30															
		公衆衛生学	1	2全	20					10	10													
		医療と倫理	1	2全	20					10	10													
		家族支援総論	1	2全	20					10	10													
		保健医療福祉行政論Ⅰ	1	2前	20					20														
		保健医療福祉行政論Ⅱ	1	3前	20							20												
		保健医療福祉行政論Ⅲ	1	4後	30										30									
	健康現象の疫学と 統計	保健統計Ⅰ	1	1後	30	4	100		30															
		保健統計Ⅱ	1	2前	30					30														
		疫学Ⅰ	1	1後	20				20															
	疫学Ⅱ	1	3全	20								10	10	0	30									
	専門分野	基礎看護学	看護学原論	1	1全	30	11	290	15	15							11							
			共通基本技術Ⅰ 技術論 安全・安楽・自立(律)	1	1前	20			20															
			共通基本技術Ⅱ 看護倫理 コミュニケーション	1	1前	20			20															
			共通基本技術Ⅲ バイタルサイン フィジカルアセスメント	1	1前	30			30															
共通基本技術Ⅳ アセスメントの枠組み 看護診断過程			1	2前	20					20														
共通基本技術Ⅴ 問題解決過程 SOAP			1	2全	20					10	10													
生活支援技術Ⅰ 環境調整、活動と休息			1	1前	30	30																		
生活支援技術Ⅱ 食と排泄			1	1後	30				30															
生活支援技術Ⅲ 清潔			1	1後	30				30															
診断治療に伴う技術Ⅰ BLS 感染予防 酸素吸引			1	1後	30				30															
診断治療に伴う技術Ⅱ 与薬 診察・検査			1	2前	30					30														
地域・在宅看護 論		地域・在宅看護概論	1	1全	30	3	90	15	15							4								
		地域・在宅看護活動論Ⅰ	1	2全	30					15	15													
		地域・在宅看護活動論Ⅱ	1	3全	30							15	15											
(領域横断科目)		健康回復支援総論	1	1後	30	4	90		30															
		死と看護	1	3前	20							20												
		看護倫理	1	4全	30									15	15									
公衆衛生看護学		災害看護と救命救急	1	3前	20	16	360					20												
		公衆衛生看護学概論Ⅰ	1	1後	20				20															
		公衆衛生看護学概論Ⅱ	1	1後	20				20															
		多職種連携支援論	1	4前	30									30										
		公衆衛生看護技術論	1	2後	20							20												
		公衆衛生看護展開論Ⅰ	1	1後	20				20															
		公衆衛生看護展開論Ⅱ	1	2前	20					20														
		公衆衛生看護展開論Ⅲ	1	3前	20							20												
		対象別保健活動論Ⅰ 成人保健・高齢者保健	2	2後	40							40												
		対象別保健活動論Ⅱ 母子(親子)保健	2	3前	40								40											
		対象別保健活動論Ⅲ 障がい者(児)・精神・難病保健、感染症対策	2	3前	40								40											
		対象別保健活動論Ⅳ 学校保健・産業保健	1	3後	30									30										
		地域づくり論	1	4後	30										30									
		公衆衛生看護管理論	1	4後	30										30									
成人看護学		成人看護学概論	1	2前	20	5	140			20						6								
		成人看護学方法論Ⅰ(クリティカルケアと看護)	1	2後	30						30													
		成人看護学方法論Ⅱ(周手術期と看護)	1	3前	30							30												
		成人看護学方法論Ⅲ(リハビリテーションと看護)	1	2後	30						30													
		成人看護学方法論Ⅳ(セルフマネジメントと看護)	1	3前	30							30												
老年看護学		老年看護学概論	1	1全	30	3	80	10	20							4								
		老年看護学方法論Ⅰ	1	2前	30					20														
		老年看護学方法論Ⅱ	1	2後	20						30													
小児看護学		小児看護学概論	1	2前	30	4	110			30						4								
		小児看護学方法論Ⅰ	1	2全	20					20														
		小児看護学方法論Ⅱ	1	2全	30							30												
		小児看護学方法論Ⅲ	1	3前	30								30											
母性看護学		母性看護学概論	1	1後	20	4	110		20							4								
		母性看護学方法論Ⅰ	1	2全	30					15	15													
		母性看護学方法論Ⅱ	1	3前	30							30												
		母性看護学方法論Ⅲ	1	4前	30									30										
精神看護学		精神看護学概論	1	1後	30	3	90		30							4								
		精神看護学方法論Ⅰ	1	2後	30							30												
		精神看護学方法論Ⅱ	1	3前	30								30											
看護の統合と実 践		看護管理	1	4全	20	4	100								10	10	4							
		看護研究Ⅰ	1	3全	20								10	10										
		看護研究Ⅱ	1	4全	30										15	15								
		国際看護	1	4全	30										10	20								
小計			57	*	1470	*		140	280	200	250	315	55	110	120									
実習	基礎看護学実習	基礎看護学Ⅰ実習	1	1後	45	4	165		45															
		基礎看護学Ⅱ実習	3	2前	120					120														
	地域・在宅看護論実習	地域・在宅看護論Ⅰ実習	1	1全	30	3	120	15	15						90									
		地域・在宅看護論Ⅱ実習	2	3全～4前	90																			
	成人・老年看護学実習	老年看護学実習	2	3前	90	7	300						90											
		健康回復支援看護実習	2	3全～4前	90									90										
		周手術期看護実習	3	3全～4前	120									120										
	小児看護学実習	小児看護学Ⅰ実習	1	2全	45	2	90			20	25					45	28							
		小児看護学Ⅱ実習	1	3全～4前	45																			
	母性看護学実習	母性看護学実習	2	3全～4前	90	2	90								90									
精神看護学実習	精神看護学実習	2	3全～4前	90	2	90							90											
看護の統合と実践実習	統合実習	3	4前	120	3	120									120									
公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学Ⅰ	2	4全	90	5	225									90									
	公衆衛生看護学Ⅱ実習	2	4全	90										90										
	公衆衛生看護学Ⅲ実習	1	4前	45										45										
小計			28	*	1200	*		15	60	140	25	90	300	480	90									
							(講義時間総計)										421	559	455	405	365	65	110	150
*			(単位)	(時間数)	*		1年次 時間数	1年次 単位数	2年次 時間数	2年次 単位数	3年次 時間数	3年次 単位数	4年次 時間数	4年次 単位数										
合計 講義 (単位数・時間数)			100	2530	講義h (単位)	(単位)	980	38	860	35	430	18	260	9										
合計 臨地実習 単位数・時間数			28	1200	実習h (単位)	(単位)	75	2	165	4	390	10	570	12										
年間合計 時間数・単位数			128	3730	年間h(単位数)	(単位)	1055	40	1025	39	820	28	830	21										
総合計時間数(単位数)			3730時間 (128単位)																					

Ⅲ．臨地実習目的・目標

目的

対象との相互作用のなかで、既習の知識と実践との結びつきを再確認し、看護職者に求められる実践能力を養う。

目標

1. 対象者の身体的、精神心理的、社会文化的な側面を統合し、理解する。
2. 相互依存の概念に基づき、人間関係を構築し、援助的関係を形成する。
3. 発達段階と健康レベルを査定し、問題解決思考を用いて、看護を計画的に実践する。
4. 対象者の意志決定を支え、倫理的な看護を実践する。
5. 対象者の状態や変化に応じて、疾病の予防、健康回復、苦痛の緩和にかかわる看護を実践する。
6. 地域の健康水準の向上にむけて、地域の健康課題を明確にし、必要な計画について考える。
7. 組織を対象にした保健活動の実際を学び、そのあり方を考える。
8. さまざまな公衆衛生看護活動の展開方法について理解を深める。
9. 対象の生活の質を向上するために社会資源を活用する
10. 保健・医療・福祉チームにおける看護職者の果たす役割と機能を認識し、他職種と協働する意義を理解する。
11. 看護実践を振り返り、自らの看護実践能力を評価し、次なる目標を設定し、看護職者としての能力向上にむけて努力する。

--

Ⅳ．実習のねらい

領域	実習科目	ねらい・目的
基礎看護学	基礎看護学Ⅰ実習	患者と人間関係の構築を図りながら、取り巻く環境を理解し、看護援助の実際を学ぶ。
	基礎看護学Ⅱ実習	患者との人間関係を基盤に看護のアセスメントの視点に基づいて患者を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を学ぶ。
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅰ実習	地域で暮らす人々の多様な価値観と健康観を知り、「生活者」の健康を支援する場と機会について理解する。
	地域・在宅看護論Ⅱ実習	保健・医療・福祉の地域ケアシステムにおける看護の果たす役割を理解し、地域で暮らす対象者の健康問題や生活課題をふまえた訪問看護活動の実際を学ぶ。
成人・老年看護学	老年看護学実習	老年期にある対象者を全人的に理解するとともに、日常生活を通して、個々のQOLに応じた看護ができるための能力を養う。
	健康回復支援看護実習	健康障害を持つ対象及びその家族がその人らしい生活を送れるよう健康の維持・増進、健康の回復、安らかな死への看護を実践する能力を養う。
	周手術期看護実習	手術療法を受ける対象とその家族を総合的に理解し、周手術期の看護実践能力を養う。
小児看護学	小児看護学Ⅰ実習	健康な乳幼児の成長発達を理解し、健全な発達に必要な援助を理解する。また、子どもを取り巻く環境について理解し、地域における子育て支援について理解する。
	小児看護学Ⅱ実習	子どもを成長・発達を続ける存在として捉え、さまざまな健康状態に応じた看護援助の方法を理解する。さらに子どもと家族を1つの単位として捉え、家族への援助の必要性を理解する。
母性看護学	母性看護学実習	マタニティサイクル各期における看護を必要とする人々とその家族を理解し、健康を維持増進していくために適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。
精神看護学	精神看護学実習	精神に障害を持つ対象を理解し、関わりを通して適切な看護を学ぶ。
看護の統合と実践	統合実習	看護専門職者として、自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力を養うとともに、看護チームの一員として、実務に即した看護実践を主体的に取り組み、看護実践能力の向上をめざす。
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅰ実習	保健師活動の実際を学び、住民の命とくらしを守る公衆衛生活動の機能と役割を理解する。
	公衆衛生看護学Ⅱ実習	高齢者の健康の保持増進および生活の安定を目指した地域包括支援センターの活動から保健師の役割を考える。
	公衆衛生看護学Ⅲ実習	働く人の抱える健康課題と産業保健活動の実際を学び、産業保健師、産業看護師の役割を理解する。 学校保健の実際を学び、地域における学校保健の機能と役割を理解する。

V. 実習科目別施設一覧

実習科目名		基礎看護学Ⅰ実習	基礎看護学Ⅱ実習	地域・在宅看護論Ⅰ実習	地域・在宅看護論Ⅱ実習	老年看護学実習	健康回復支援看護実習	周手術期看護実習	小児看護学Ⅰ実習	小児看護学Ⅱ実習	母性看護学実習	精神看護学実習	統合実習	公衆衛生看護学Ⅰ実習	公衆衛生看護学Ⅱ実習	公衆衛生看護学Ⅲ実習
施設名																
医療法人財団 康生会 武田病院	病棟	●	●				●	●					●			
	手術室・ICU							●								
社会医療法人 岡本病院（財団） 京都岡本記念病院	病棟		●				●	●								
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	病棟	●	●				●	●					●			
	手術室							●								
医療法人財団 医道会 十条武田リハビリテーション 病院	病棟		●				●						●			
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	病棟	●						●		●	●					
	手術室・ICU							●								
医療法人 医仁会武田総合病院	病棟	●					●	●		●	●					
	手術室							●								
地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院							●									
一般財団法人 長岡記念財団 長岡ヘルスケアセンター（長岡病院）												●				
京都山城総合医療センター										●	●					
医療法人社団石鎚会 京都田辺中央病院										●						
京都清水メディケアシステム 京都リハビリテーション病院							●									
社会福祉法人 あじろぎ会 宇治病院		●					●						●			
医療法人社団 医聖会	病棟						●	●								
学研都市病院	手術室							●								
社会医療法人西陣健康会 堀川病院							●									
医療法人清仁会 シミズ病院							●									
介護老人保健施設						●										
介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム						●										
保育所・児童福祉施設									●							
福祉関連施設			●													
訪問看護ステーション				●												
京都市保健福祉センター														●		
福祉施設														●		
京都市地域包括支援センター															●	
産業保健施設																●
学校施設																●

Ⅵ. 実習における技術項目一覧

■卒業時の到達レベル＜実習＞ I：単独で実施できる
II：指導の下で実施できる
III：実施が困難な場合は見学する

項目	技術の種類	卒業時の到達度 (実習)	小児看護学Ⅰ実習	基礎看護学Ⅱ実習	地域・在宅看護論Ⅱ実習	老年看護学実習	健康回復支援看護実習	周手術期看護実習	精神看護学実習	母性看護学実習	小児看護学Ⅱ実習	統合実習
1. 環境調整技術	1 快適な療養環境の整備	I		I	II	I	I	I	I	I	I	I
	2 臥床患者のリネン交換	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
2. 食事の援助技術	3 食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	I		I	II	I	I	I	I	II	III	I
	4 食事指導	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	5 経管栄養法による流動食の注入	II		II	III	II	II	II	II	III	III	II
	6 経鼻胃チューブの挿入	III		III	III	III	III	III	III	III	III	III
3. 排泄援助技術	7 排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	II		III	II	II	II	II	II	II	II	II
	8 膀胱留置カテーテルの管理	III		III	II	III	III	III	III	III	III	III
	9 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	III		III	III	III	III	III	III	III	III	III
	10 浣腸	III		III	III	III	III	III	III	III	III	III
	11 摘便	III		III	III	III	III	III	III	III	III	III
	12 ストーマ管理	III		III	III	III	III	III	III	III		III
4. 活動・休息援助技術	13 車椅子での移送	I		I	II	I	I	I	I	I	I	I
	14 歩行・移動介助	I		II	II	II	II	I	II	II	II	I
	15 移乗介助	II		III	II	II	II	II	II	II	II	II
	16 体位変換・保持	I		II	II	II	II	I	I	I	II	I
	17 自動・他動運動の援助	II		III	II	II	II	II	II	II	III	II
	18 ストレッチャー移送	II		III		III	III	II	II	II	II	II
5. 清潔・衣生活援助技術	19 足浴・手浴	I		I	II	I	I	I	I	I	II	I
	20 整容	I		I	II	I	I	I	I	I	II	I
	21 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	I		I	II	I	I	I	I	II	II	I
	22 入浴・シャワー浴の介助	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	23 陰部の保清	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	24 清拭	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	25 洗髪	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	26 口腔ケア	II		II	II	II	II	II	II	I	II	II
	27 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	II		III	III	III	III	II	III	III	III	II
	28 新生児の沐浴・清拭	III								II～III		

項目	技術の種類		卒業時の到達度（実習）	小児看護学Ⅰ実習	基礎看護学Ⅱ実習	地域・在宅看護論Ⅱ実習	老年看護学実習	健康回復支援看護実習	周手術期看護実習	精神看護学実習	母性看護学実習	小児看護学Ⅱ実習	統合実習
6.呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	Ⅰ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
	30	酸素吸入療法の実施	Ⅱ		Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
	32	口腔内・鼻腔内吸引	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	33	気管内吸引	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	34	体位ドレナージ	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
7.創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ		Ⅱ
	36	創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
	37	ドレーン類の挿入部の処置	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
8.与薬の技術	38	経口薬（パッカ錠、内服薬、舌下錠）の投与	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ
	39	経皮・外用薬の投与	Ⅱ		Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ
	40	坐薬の投与	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
	41	皮下注射	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	42	筋肉内注射	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	43	静脈路確保・点滴静脈内注射	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	44	点滴静脈内注射の管理	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
	45	薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
9.救命救急処置技術	46	輸血の管理	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	47	緊急時の応援要請	Ⅰ		Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ
	48	一次救命処置（Basic Life Support：BLS）	Ⅰ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ
10.症状・生体機能管理技術	49	止血法の実施	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	50	バイタルサインの測定	Ⅰ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
	51	身体計測	Ⅰ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
	52	フィジカルアセスメント	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
	53	検体（尿、血液等）の取扱い	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ
	54	簡易血糖測定	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ
	55	静脈血採血	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
11.感染予防技術	56	検査の介助	Ⅱ		Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ
	57	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	Ⅰ		Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
	59	使用した器具の感染防止の取扱い	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
	60	感染性廃棄物の取扱い	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
	61	無菌操作	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ

項目	技術の種類		卒業時の到達度（実習）	小児看護学Ⅰ実習	基礎看護学Ⅱ実習	地域・在宅看護論Ⅱ実習	老年看護学実習	健康回復支援看護実習	周手術期看護実習	精神看護学実習	母性看護学実習	小児看護学Ⅱ実習	統合実習
12.安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	64	患者の誤認防止策の実施	I		I	II	I	I	I	I	I	II	I
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	66	放射線の被ばく防止策の実施	I		II	III		I	I	I	II		I
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	III		III	III		III	III		III		III
	68	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理	III		III	III	III	III	III	III	III	III	III
13.安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
	71	精神的安寧を保つためのケア	II		II	II	II	II	II	II	II	II	II